

2024 年度 研究の進捗状況

2025 年 3 月 31 日 現在

氏名：田中 耕作（2017 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：長距離走の能力を効果的に改善するための新たな補助トレーニング法とその指導法に関する研究

●論文作成

1. 田中耕作, 高井洋平, 吉岡利貢, 三浦孝仁：日本トップレベルの車いす陸上競技短距離選手における低酸素環境下でのスプリントインターバルトレーニングの事例, トレーニング科学, 36(3) 2024年5月28日
2. 田中耕作, 森寿仁, 高井洋平, 山本正嘉：上り坂を利用したドリル運動は水平面走行時の「膝のつぶれ」を改善させる, スポーツパフォーマンス研究, 17：59-65. 2025年1月27日

●学会発表

1. 田中耕作, 吉岡利貢, 三浦孝仁, 高井洋平, 高橋仁大：男子ユースバレーボール選手の体重変化が跳躍および走パフォーマンスに与える影響, 第 10 回日本スポーツパフォーマンス学会大会
2. 田中耕作, 高井洋平, 吉岡利貢, 三浦孝仁：フィールドホッケーのユース選手における運動能力の特徴, 日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会.

●その他

なし

以上

氏名：山田盛朗（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：PCM手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの開発と有用性の検証

研究課題 1：PCM 手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの設計と実践を通じた課題の把握

研究課題 2 -1：PCM 手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの再設計

研究課題 2 -2：PCM 手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルのプログラム評価

研究課題 2 -3：PCM 手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの学修成果の検討

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名： 森 実由樹（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：体育系大学新入生における入学時のスポーツ外傷・障害の実態
～高校現役引退から大学スポーツに参加するまでの過ごし方に着目して～

研究課題 1：大学スポーツに参加するまでの過ごし方が、体育系大学新入生整形外科的
メディカルチェックの結果に与える影響を明らかにする

研究課題 2：入学前コンディショニングが、体育系大学新入生メディカルチェックに与
える影響を明らかにする

●論文作成

なし

●学会発表

1. 森 実由樹, 山本利春, 笠原政志, 清水伸子, 児玉菜摘：体育系大学新入生における
フィジカルチェックとセルフコンディショニングの行動変容段階, 第13回日本アス
レティックトレーニング学会, 2024年9月

●その他

なし

以上

氏名：今城 遥 (2020 年度入学)

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：高等教育における Andragogy 理論に基づく「共生体育」授業の実践

研究課題Ⅰ：成人教育であるアンドラゴジー理論に基づく共生体育についての検討をおこなう。

授業実践を通してペダゴジーとアンドラゴジーの「共生体育」の違いを明らかにする。

研究課題Ⅱ：アンドラゴジー理論に基づく「共生体育」授業を設計・実践し、その効果を検証する。

研究課題Ⅲ：「共生体育」授業を受講することによる多様性に関する意識・態度・行動に及ぼす影響について検討する。

●論文作成

1. 中川雅智、今城遥、教員養成課程における異学年合同授業に関する実践研究
— 模擬授業後の省察の違いに着目して —、聖カタリナ大学人間文化研究所紀要第 28 号、2023 年
2. 今城遥、共生社会の実現を目指した障がい者スポーツ振興のための実態調査
— 持続可能なマッチング支援に向けた人的資源に着目して —、聖カタリナ大学紀要第 36 号、2024 年

●学会発表

1. 今城遥、長谷川悦示、齋藤拓真：学習者の立場の違いが共生体育授業のゲームルール評価に及ぼす影響、日本スポーツ教育学会、2023年9月24日
2. 今城遥、長谷川悦示、齋藤拓真：ボール運動・球技のゲームルールに関する学習者評価の検討、日本体育科教育学会、2023年7月9日
3. 今城遥：共生社会の実現を目指した障がい者スポーツ振興のための実態調査
— 持続可能なマッチング支援に向けた人的資源に着目して —、日本体育スポーツ健康学会、2023年9月1日
4. 今城遥、松本有記：障がいのある人との交流体験が参加形態による「障害理解」「スポーツの価値」「パラスポーツのイメージ」に与える影響、日本アダプテッド・スポーツ学会、2024年12月8日

●その他

なし

以上

氏名：北村麻衣（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：女子バスケットボール日本トップ選手のキャリア発達と大学スポーツの関与に関する研究

研究課題1：元WJBL選手対象の多様な進路・キャリア選択に関するインタビュー調査

研究課題2：現役WJBL選手のセルフマネジメントスキルやキャリアの準備性に関する心理尺度調査

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

以上

氏名： 横山 茜理（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学バスケットボールチームにおけるアナリストの育成に関する研究

研究課題 1：大学バスケットボールチームにおけるアナリストの成長に関する振り返り
-ゲームパフォーマンス分析に注目して-

研究課題 2：大学バスケットボールチームにおけるアナリストの「スキル評価ルーブリック」の検討

研究課題 3：大学バスケットボールチームにおけるアナリストの「スキル評価ルーブリック」の活用事例

●論文作成

1. 横山茜理, 高橋仁大：大学バスケットボールチームにおけるアナリストの「スキル評価ルーブリック」の検討, バスケットボール研究, 10：29-37, 2024.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：渡邊 仁（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学体育としての野外運動が学修者の創造性に及ぼす影響

研究課題 1：野外運動の創造性に関する理論的検討

研究課題 2：創造的自己に関する尺度の作成と構造

研究課題 3：創造的自己の向上を意図した野外運動の設計と実践

研究課題 4：創造性の向上を意図した野外運動の効果検証

研究課題 5：野外運動による創造的自己の変容に関する質的検討

●論文作成

1. 渡邊仁：動き 野外運動－理論と実践の往還に向けて 1－. 野外教育学の探究－実践の礎となる理論をめぐる 14 章－（土方圭・張本文昭編著），杏林書院，182-198，2024.
2. 渡邊仁：個別性に対する安全対策 & 事故の法的責任. 日本スキー教程安全編，公益財団法人全日本スキー連盟，芸文社，36-41 & 52-58，2024
3. 渡邊仁：吉川市関公園 ASE 指導者養成テキスト. 埼玉県吉川市，1-34，2024.
4. 渡邊仁，折居巧朗，高橋達己：（速報版）2024 年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究-状態/自尊感情・ソーシャルサポート・原生自然観-. 一般社団法人田部井淳子基金 東北の高校生の富士登山 2024. p44，2024.
5. 大友あかね，渡邊仁，坂本昭裕：課題解決型アクティビティにおける他者との身体を介した関わりに関する一考察－竹内敏晴の出会いのレッスンとの構造比較－. 大学体育スポーツ学研究 22（早期公開），2025.
6. 高橋達己，渡邊仁：野外教育を専門とする学生の初期及び現在の学習動機. 野外教育研究 28，（早期公開），2025.
7. 渡邊仁：自立したスキーヤーを育てる安全指導. 大学スキー研究会 2024/2025 年度 会誌，（早期公開），2025.

●学会発表

1. 渡邊仁，坂本昭裕：大学体育としての野外運動が Creative Mindsets に及ぼす影響. 日本野外教育学会第 27 回大会，2024 年 6 月.
2. 吉村涼平，屋代滯，渡邊仁，折居巧朗：イニシアティブゲームにおける大学生の笑顔表出に関する研究. 日本野外教育学会第 27 回大会，2024 年 6 月.
3. 高橋達己，坂本昭裕，渡邊仁：野外教育と協同学習の共通性と可能性. 日本野外教育学会第 27 回大会，2024 年 6 月.
4. 谷中理矩，渡邊仁：MTB トレイルビルド活動がアウトドアフィールドへの地域愛着に及ぼす影響. 日本野外教育学会第 27 回大会，2024 年 6 月.

5. 折居巧朗, 渡邊仁, 高橋達己: 原生自然観を測定する尺度作成の試み. 日本野外教育学会第 27 回大会, 2024 年 6 月.
6. 木之下歩夢, 渡邊仁, 高橋達己, 折居巧朗: ASE が大学水球選手の集団環境認識に及ぼす影響. 日本野外教育学会第 27 回大会, 2024 年 6 月.
7. 永山遼真, 藤川萌, 坂本昭裕, 渡邊仁, 大友あかね: 留学生を対象としたデイキャンプの実践. 日本野外教育学会第 27 回大会, 2024 年 6 月.
8. 土方圭, 張本文昭, 遠藤知里, 高橋徹, 多田聡, 渡邊仁, : 杏林書院『野外教育学の探究』をめぐるダイアログ. 日本野外教育学会第 27 回大会, 2024 年 6 月.
9. 渡邊仁: 自立したスキーヤーを育てる安全指導. 2024/2025 年度大学スキー指導者研究集会, 2025 年 1 月.
10. Tatsuki Takahashi, Sakamoto Akihiro, Hitoshi Watanabe : Development of ASE Programs to Effectively Foster Collaboration Skills. ARIHHP Human High Performance Forum 2025, 2025 年 2 月.
11. 渡邊仁: 自立したスキーヤー育成の指導アプローチに関する理論的検討-セルフリスクマネジメントの観点から-. 日本スキー学会第 35 回大会, 2025 年 3 月.
12. 永井将史, 坂本昭裕, 渡邊仁: 行動科学の理論に基づくスノースポーツへの行動を促進する大学体育授業に関する理論的検討. 日本スキー学会第 35 回大会, 2025 年 3 月.

●その他

渡邊仁: 「スポーツ環境デザインとビジネスマネジメント」に対する研究助成. 株式会社 Waisports ジャパン

以上

氏名：田川 浩子（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学陸上競技者における技能改善に向けた運動の理解に関する確認観点の提案
：技能改善が上手くいかない状況の事例分析を手がかりにして

研究課題1：競技者が運動意識を理解するための記述・分析法の検討

研究課題2：技能改善が上手くいかない大学砲丸投競技者の運動の理解・に関する事例的
分析

研究課題3：技能改善に向けた競技者の運動の理解に関する確認観点の検討

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：西園 聡史（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学サッカーの守備におけるボール奪取時の認知に関する事例的研究：グループ戦術に着目して

序章：問題の所在と研究の目的及び方法

第1章：大学サッカーにおける戦術に関する研究動向と課題整理

第2章：大学サッカーの守備に関する研究動向と課題整理

第3章：大学サッカーの守備におけるボール奪取時の認知に関する検討：状況判断モデルに着目して

事例研究

第4章：ボール奪取を目指したグループ戦術が成就するための認知的なポイント：大学サッカーに着目した事例研究

第5章：ボール奪取を目指したグループ戦術が成就するための認知的なポイント：グループ戦術に関するトレーニングの検証

結章：本論文における総括と今後の課題

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：阿部隆行 （2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：体育教師教育における経営学習論に基づくコミュニティシップ育成プログラムの開発と検証

研究課題Ⅰ：体育教師教育におけるコミュニティシップ育成の検討と尺度の開発

研究課題Ⅱ：経営学習型コミュニティシップ育成プログラムの開発と検証

●論文作成)

1. 石塚 諭, 松浦佑希, 阿部隆行, 梅澤秋久：体育授業における事前計画に対する教師の意識構造, 日本教育工学会論文誌 48(1), 273-284, 2024.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：大友あかね （2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：野外運動の授業における身体活動を通じた関わりが大学生の他者理解に及ぼす影響

研究課題 1：身体性の理論に基づいた課題解決型アクティビティ実践の整理

研究 1-1 他者との身体活動を通じた関わりの理論的背景の整理

研究 1-2 課題解決型アクティビティを取り入れた授業実践の整理

研究課題 2：身体的他者意識の構造把握と他者意識との関連

研究 2-1 身体的他者意識の構造の検討

研究 2-2 課題解決型アクティビティを取り入れた授業の効果検証

研究課題 3：課題解決型アクティビティにおける身体活動を通じた関わりと他者理解の変容

研究 3-1 身体活動を通じた関わりによって変容する他者のあり方に関する事例研究

研究 3-2 受講生の他者理解の変容プロセス

●論文作成

1. 大友あかね・渡邊仁・坂本昭裕（2025）課題解決型アクティビティにおける他者との身体を介した関わりに関する一考察．大学体育スポーツ学研究，22巻

●学会発表

なし

●その他

1. JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING） 採用

研究題目：野外運動の授業における身体活動を通じた関わりが大学生の自他理解に及ぼす影響

以上

氏名：堀口 文（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学体育における体づくり運動の学習プログラムの開発

－身体活動における自己管理能力の向上に着目して－

研究課題Ⅰ：体づくり運動および一般体操に関する文献調査・実態調査

研究課題Ⅱ：身体活動における自己管理能力の向上を目指した学習プログラムの開発

研究課題Ⅲ：学習プログラムの実施とその効果検証

●論文作成

なし

●学会発表

1. 渡邊 和仁，高橋 靖彦，堀口文，内山 応信：ラートの習慣的实施が起立負荷時の血圧変化及び自覚症状に及ぼす影響．第 32 回日本体力医学会東北地方大会．2024 年 5 月 25 日．
2. 加畑碧，本間三和子，堀口文，松浦稜，狩野莉奈：映像フィードバックを活用した大学ダンス授業における Deliberate practice の検証．日本コーチング学会第 36 回大会．2025 年 3 月 6 日．

●その他

なし

以上

氏名：本谷 聡（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学生の姿勢改善をねらいとした体操の開発と効果検証：

ドイツ体操におけるHaltungsschulungの課題特性を生かした試み

研究課題 1：ドイツ体操学校のSport und Gymnastik Schule Kiedaischにおける
Haltungsschulungの運動課題に関する記述的研究

研究課題 2：Haltungsschulungの課題特性を生かした姿勢体操の開発：
デルファイ法による内容妥当性の検証より

研究課題 3：大学生の姿勢改善をねらいとして開発した姿勢体操の効果検証

●論文作成

1. 本谷聡，木内敦詞，永田真一，狩野莉奈，堀口文：Haltungsschulungの課題特性を生かした姿勢体操の開発：デルファイ法による内容妥当性の検証より．体操研究，18：1-15，2025．（原著：査読有）

●学会発表

なし

●その他

1. 本谷聡：高等学校の体づくり運動における生徒の主体的・対話的活動を促す運動プログラム開発．科研費基盤研究（C）（課題番号：22K11628、研究期間：2022～2025 年度）

以上

氏名：大澤 啓亮（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：テニスのサーブ動作における観察的評価基準の作成

●論文作成

なし

●学会発表

1. 大澤啓亮, 和田智仁, 村上俊祐, 高橋仁：SVM による有効なサービスコースの分析と可視化－男子プロテニスゲームにおける 1st サービスに着目して－, スポーツ情報学シンポジウム（第 1 回 SI 研究発表会）, 2024 年 6 月
2. 大澤啓亮, 村上俊祐, 高橋仁大：男子プロテニス選手における有効なサービスコースの検討, 第 36 回テニス学会, 2024 年 6 月
3. 村上俊祐, 大澤啓亮, 高橋仁大：打点の「幅」を広げるトレーニングの提案："Sitting on a slow ball"方略に基づいて, 第 36 回テニス学会, 2024 年 6 月
4. 中村和樹, 大澤啓亮, 村上俊祐, 高橋仁大：男女エリート車いすテニス選手におけるサーブの重要性について, 第 36 回テニス学会, 2024 年 6 月
5. 松田佳親, 田中響, 大工園彩夏, 村上俊祐, 大澤啓亮, 沼田薫樹, 中村和樹, 高橋仁大：テニスのフォアハンドボレーにおける上肢動作の特徴, 第 10 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2024 年 7 月
6. Keisuke Osawa, Kazuki Nakamura, Yosuke Inaba, Kei Sato, Shunsuke Murakami, Hiroo Takahashi：The Influence of Service Performance on Match Winning and Losing in Men's Wheelchair Tennis, 14th World Congress of Performance Analysis of Sport

●その他

1. 主観的評価に基づくサービス動作の評価がサービス速度に及ぼす影響についての検討, ヒューマン・ハイパフォーマンス先端研究センター(ARIHHP)公募型「共同利用・共同研究」公募事業, 2024 年 4 月－2025 年 3 月

以上

氏名：岡村 修平（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：ゲームパフォーマンス分析をコーチングにつなげるためのフレームワークの検討
討：大学女子テニス選手を対象としたダブルスのコーチング事例を基に
研究課題 1：男女大学テニス選手のダブルスを対象としたゲームパフォーマンス分析
研究課題 2：大学女子テニス選手のダブルスを対象としたコーチング

●論文作成

1. 岡村修平，村上俊祐，宮地弘太郎，大澤啓亮，中村和樹，高橋仁大：男女大学テニス選手を対象としたダブルスにおけるゲーム終盤のカウントと技術に関する研究. テニスの科学，33巻（印刷中）
2. 村上俊祐，岡村修平，高橋仁大：テニス競技のゲームパフォーマンスを構造化する試み：上位の公認スポーツ指導者資格を保有する指導者のアイデア，スポーツパフォーマンス研究，17巻（印刷中）

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：笠原春香（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：我が国の大学スポーツ振興に向けた大学内スポーツ統括部局の組織変革プロセスに関する基礎的研究

研究課題1：現在の日本の大学内スポーツ統括部局はどのような組織構造になっているのか

研究課題2：日本の大学内スポーツ統括部局において組織構造の変化を起こすにはどのようにすればよいのか

●論文作成

1. Kasahara, H. et al. (2024). The Japanese Intercollegiate Athletic Department and Categorization of Organizational Structure into Three Dimensions. *Asian Sport Management Review*, 17, 1-42.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：加畑 碧（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：映像フィードバックを活用した大学ダンス授業における Deliberate Practice
授業の開発

研究課題 1：Deliberate Practice に関する研究の整理

研究課題 2：映像フィードバックの効果検証

研究課題 3：映像フィードバックを活用した大学ダンス授業における Deliberate Practice
の検証

●論文作成

なし

●学会発表

1. 松浦稜, 木内敦詞, 檜皮貴子, 加畑碧, 長谷川聖修：生活活動で実践できるストレッチの即時的効果の検証：二次元気分尺度を用いて.日本体操学会第24回大会,2024年9月7日
2. 加畑碧, 本間三和子, 堀口文, 松浦稜, 狩野莉奈：映像フィードバックを活用した大学ダンス授業におけるDeliberate practiceの検証. 第36回日本コーチング学会, 2025年3月6日.

●その他

なし

以上

氏名：鍋山隆弘（2023年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：社会人基礎力の獲得を促すPBL型大学体育剣道授業の開発

研究課題1：大学体育剣道授業の受講を通じた社会人基礎力獲得の特徴を検討

研究課題2：社会人基礎力の獲得を意図した大学体育剣道授業の設計

研究課題3：社会人基礎力の獲得に関する実証的検討

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：中谷 太希（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：体操競技における促発指導への移行過程と転機
：選手から指導者への移行における10年間の指導事例を手がかりに

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：廣瀬 恒平（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：記述的ゲームパフォーマンス分析によるラグビーの防御戦術に関する成功要因の検討

研究課題 1：世界トップレベルの防御戦術遂行に関するゲーム様相の解明

研究課題 2：レベル別の比較を通じた、非トップレベルにも有用と仮定される戦術の立案

研究課題 3：戦術導入前後のゲームパフォーマンス比較による、戦術有効性の検証

●論文作成

1. 廣瀬恒平, 千葉剛, 高橋仁大：ラグビーのタックル局面におけるプレー成功要因の検討 - 世界トップレベルと国内大学レベルの比較 -, スポーツパフォーマンス研究, 17：107-118, 2025

●学会発表

1. 廣瀬恒平：15人制ラグビーにおける防御戦術の検討－世界トップレベルと国内大学レベルとの比較を通して－, 千葉県体育学会令和5年度第2回学会大会抄録：3, 2023
2. 廣瀬恒平：15人制ラグビーのボール争奪局面における防御戦術の検討 - 世界トップレベルと国内大学レベルの比較を通して, コーチング学会第35回大会抄録集：61, 2024【優秀発表賞受賞】
3. 廣瀬恒平, 千葉剛, 澤田大地, 高橋仁大：15人制ラグビーのボール争奪局面における防御戦術の検討 - 22m ライン間の密集からのボール出しに要する時間に着目して -, 千葉県体育学会令和6年度第1回大会抄録：1, 2024
4. 廣瀬恒平, 高橋仁大：15人制ラグビーにおける防御戦術に関する研究 - レベル別の比較を通しての検討 -, 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会予稿集：779, 2024
5. 廣瀬恒平, 千葉剛, 澤田大地, 高橋仁大：15人制ラグビーのボール争奪局面におけるプレー様相 - ラグビーワールドカップにおけるレベル別比較, 千葉県体育学会令和6年度第2回大会抄録：1, 2024
6. 廣瀬恒平, 千葉剛, 高橋仁大：15人制ラグビーのボール争奪局面におけるプレー様相 - 世界トップレベルと国内大学レベルの比較, 日本コーチング学会第36回学会大会プログラム抄録集：68, 2025.
7. 廣瀬恒平, 千葉剛, 高橋仁大：15人制ラグビーのボール争奪局面におけるプレー様相 - 状況別のプレー選択に着目して -, 日本フットボール学会 22nd Congressプログラム：3, 2025

8. Takumi Yamamoto, Koh Sasaki, Jun Murakami, Hironobu Shimozono, Kohei Hirose, Go Chiba, Hiroaki Yano: Scoring Profiles of New League in Japan; Japan Rugby League One 2022–2023, The 14th World Congress of Performance Analysis of Sport, Middlesex, 2024

●その他

1. ラグビー研究協議会編（分担執筆）
「ラグビーのコーチング学（第3章 第2節 ボール争奪局面のコーチング活動）」
大修館書店, pp50-53, 2024.

以上

氏名：井上 陽（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学が主催する観戦型スポーツイベントとしてのホームゲームがもたらす社会的価値-社会的投資収益率（SROI）を用いて-

研究課題 1：先行研究のレビュー調査による国内外のスポーツにおける SROI 研究の動向整理

研究課題 2：大学が主催するホームゲームについて SROI を用いて定量的に評価するための質問票の作成

- 質的研究手法を用いたホームゲームにおけるステークホルダーの特定とアウトカム指標の抽出

研究課題 3：大学が主催するホームゲームについて SROI を用いた定量的な評価と評価方法についての検証

- 量的研究手法を用いたホームゲームにおける各ステークホルダーのアウトカム評価と、その金銭的価値の算出

●論文作成

1. Sumei H, Genboku Takahashi, Yoh I, Yuka A, and Randeep R (2024) Designing a Summer Yoga Camp for Graduate Student's: The Need for Communicating Issues and Understanding Self for Navigating Academic and Life-related Issues , volume11 Issue2-June 2024 DOI: 10.19080/JYP.2024.10.55815

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名： 高橋達己（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：学修者の協働性を促進する大学体育授業に関する研究

研究課題 1：協働的な学習に関する諸理論を整理し、大学体育における位置づけを検討する

研究課題 2：協働性を促進する大学体育授業モデルを構築し、具体的な指導法について検討する

研究課題 3：協働的な大学体育授業が大学生の協働性に及ぼす影響とその変容過程を明らかにする

●論文作成

なし

●学会発表

1. 高橋達己, 坂本昭裕, 渡邊仁, 野外教育と協同学習の共通性と可能性, 日本野外教育学会第 27 回大会, 2024 年 6 月 30 日
2. Tatsuki Takahashi, Akihiro Sakamoto, Hitoshi Watanabe, Development of ASE Programs to Effectively Foster Collaboration Skills, ARIHHP Human High Performance Forum 2025, 2025 年 3 月 1 日

●その他

1. 学習者の協同性を効果的に促進する ASE プログラムの構築, 筑波大学ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター(ARIHHP), ARIHHP 研究プロジェクト, 240,000 円
2. 大学体育授業における協働性促進モデルの開発と実証：野外運動を題材として, 日本学術振興会, 2025 年度基盤研究(C) (一般), 交付予定額未定 (採択済)

以上

氏名：曹 暢（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：留学生の大学スポーツ参加が大学生活への適応に及ぼす影響

研究課題 1：留学生はどのような形態でスポーツとかかわるのか、留学生たちはどのような体育授業を期待しているのかについて調査票を作成し、その結果を分析する。

研究課題 2：調査票の分析結果によって、留学生の大学生活への適応を高めるスポーツ並びに体育授業の特徴を明らかにする。

研究課題 3：研究課題②の結果を受けて、留学生の大学生活への適応を高める授業モデルを計画・実施し、効果を検討する。

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

1. JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム

以上

氏名：川崎 百合香（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：「現代的なリズムのダンス」の教材及び指導法モデルの構築－「リズムに乗って全身で自由に踊る」ことをねらいとした教材・指導法の提案－

研究課題 1：中学校ダンス領域における「現代的なリズムのダンス」の授業に関する調査

研究課題 2：「現代的なリズムのダンス」の教材および指導法モデルの構築

研究課題 3：「現代的なリズムのダンス」の教材及び指導法モデルの汎用性と妥当性の検証

研究課題 4：「現代的なリズムのダンス」の教材及び指導法モデルの学校現場における有効性の検証

●論文作成

1. 山本泰暉, 川崎百合香, 三島遥, 小笠希将：小学校から高等学校までの体育授業好感度と大学での運動習慣, 福岡大学スポーツ科学研究, 54 (2)：37-43, 2024

2. 川崎百合香：誰もが楽しめる「体育」の授業実現を目指した教育実践記録, 大学体育研究, 47, 2024

●学会発表

1. 川崎百合香, 梶ちか子：「現代的なリズムのダンス」の リズムの特徴を捉えやすいテンポの検証, 九州体育・スポーツ学会第73回大会, 2024年9月8日

●その他

1. 九州体育スポーツ学会 研究助成金（令和 6 年度）

研究課題名：中学校ダンス領域の「現代的なリズムのダンス」の授業における「技能」指導に関する調査

2. 福岡大学推奨研究プロジェクト 公的研究費獲得支援（令和 6 年度）

研究課題名：「現代的なリズムのダンス」における動きの模倣に頼らない教授法に関する研究－「リズムに乗って全身で自由に踊る」ことをねらいとした教材・指導法の提案－

以上

氏名：坂尾 美穂（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：サッカーの攻撃場面における得点機会創出能力の変化について
：大学女子サッカーチームにおける複数シーズンのパフォーマンスに焦点をあてて

研究課題1：大学女子サッカーチームにおけるボールポゼッション能力の分析：複数シーズンにおける変化内容と上位ディビジョンへの昇格レベルの水準の検討

研究課題2：大学女子サッカーチームにおける対戦相手のレベル差による得点機会創出プレーの比較：上位ディビジョンでのボールポゼッション能力と得点機会創出エリア侵入頻度に焦点をあてて（仮）

研究課題3：大学女子サッカーチームにおける得点機会創出プレーについての検討：上位ディビジョンでの「ラインブレイクプレー」の発揮に焦点をあてて（仮）

●論文作成

なし

●学会発表

1. 坂尾美穂, 高橋仁大：サッカーのリーグ内レベル差による得点機会創出エリア侵入頻度の違い（大学女子サッカーチームを対象に），日本フットボール学会第22回学会大会，2025年3月8~9日

●その他

なし

以上